

## トランプで知ろうSDGs

愛教大生 西三河の小学校に寄贈



授業でカードの使い方を紹介する市川さん（中央奥）ら＝刈谷市の富士松東小で

刈谷市の愛知教育大の学生団体「SAGA（サーガ）」が、国連の持続可能な開発目標（SDGs）について学ぶ教材を同市教委へ寄贈した。教材はサーガのオリジナル。西三河地方の全小学校へ贈って授業などで活用してもらいたいと、100万円を目標に今春、クラウドファンディングを実施。113万円を調達して9市1町の216校分を作り、順次届けている。

教材は「バイオミミクリ・トランプ」と銘打った

54枚セットのカードで、各校に2セットずつ贈る。バイオミミクリは「生物模倣」の意味で、動植物の仕組みを製品開発などに応用

することを目指す。

カードは具体的な動植物の仕組みと、その産業への応用例がペアになっている。例えば、回転しながら飛散する羽根のような形をしたカエデの種子と、効率よく回転するようにその形状をまねた風車がペア。神経衰弱やババ抜きでペアを見つけて遊び、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」などに触れられる。

市内の15小学校に対する寄贈式が25日、富士松東小であり、サーガ代表で4年の市川佳依さん（23）ら学生7人が訪問。市川さんは「身近な暮らしの中にSDGsの手掛かりがある。楽しく学んで」と話し、代表の児童に手渡した。寄贈後、学生は4年生の授業に出向き、神経衰弱を通じて使い方を紹介した。（諏訪慧）